有田内山歴史地区

17 世紀中頭より、有田地域の磁器産業は内山が中心となりました。内山は、江戸時代（1603-1868）に有田地域の職人たちが磁器の石材を主に調達した泉山（いずみやま）の採掘場に近いです。有田焼の名だたる窯元の多くは内山にあり、江戸時代にはこの地区への立ち入りは佐賀藩によって厳しく管理されていました。

1828 年の文政の大火の際、内山の建物はほとんどが全焼してしまいました。現在まで残っているのはわずか 1 棟だけです。その後、1 世紀半をかけて、日本の伝統様式と西洋様式を組み合わせた建物が建てられ、1991 年には一帯が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。2024 年時点、この地区では、江戸時代（1603-1868）末期、明治時代（1868-1912）、大正時代（1912-1926）、昭和（1926～1989）初期の 164 棟の歴史的建造物が指定されています。保存地区内にある各建造物には染付磁器で作った小さな銘板が付けられており、建築された年や時代が記されています。

歴史的建造物の多くはカフェやギャラリー、ショップに姿を変えています。この地区にある名だたる窯元の中には、ショールームや、古いコレクションを収めた博物館なども含め、一般に開放しているところもあります。有田陶磁美術館と旧田代（たしろ）家西洋館もこの内山地区にあります。有田陶器市の一部も、毎年 4 月 29 日～5 月 5 日にかけて内山で開かれています。